



子ども霞が関見学デー (8月8日、9日)



子ども霞が関見学デー:藤田副大臣とのミニ記者会見

[今月の顔・巻頭言]

- 01 **ジグソーパズル**  
 山中 伸弥 京都大学IPS細胞研究所所長

[特集]

- 02 **「子ども霞が関見学デー」開催**  
 —夏休みの思い出に900名以上の親子が参加—

[SPOT]

- 10 **平成25年度予算の概算要求組替え基準について**  
 阪田 渉
- 28 **南カリフォルニア地域の日本人経営者**  
 —グローバル人材・起業についてのケーススタディー—  
 村尾 洵一
- 41 **うつの時代**  
 金村 元



今月の表紙:満月と五重塔とススキ

[連載]

- 21 **超有識者場外ヒアリングシリーズ** 神田 真人  
私学・ファッション産業編 大沼 淳 文化学園理事長 (日本私立大学協会会長)
- 44 **お札よもやま話** 独立行政法人国立印刷局  
 第2回 伝統の技・すかし130年 お札と切手の博物館
- 47 **海外ウォッチャー**  
 「ローマの平日～現代ローマ人、イタリアの日常～」  
 「豪州経済はNo Worriesか」 加藤 隆宏
- 61 **世界経済危機を契機に資本主義の多様性を考える**  
 第31話 日本への視点(21)ーヴォーゲルの見た日本③ 田中 修
- 66 **シリーズ 日本経済を考える②** 吉田 桂  
 東京都の財政運営についての分析 上田 淳二
- 74 **コラム 海外経済の潮流45**  
 英国製造業の現状～金融立国、産業革命への原点回帰なるか?～ 原 伸年
- 76 **各地の話題**  
 美しい自然と歴史に抱かれた清流の国 「岐阜」 杉山 みどり  
 んみゃーち、宮古島! 本村 茂希

82 **編集後記**



● 本誌に掲載した論文等のうち、意見にわたる部分は、それぞれ著者の個人的見解であることをお断りしておきます。  
 ● 記事の一部がホームページでもご覧いただけます。http://www.mof.go.jp/public\_relations/finance

● 本誌へのご意見・ご要望は 〒100-8940 東京都千代田区霞が関3-1-1 「財務省広報室内ファイナンス編集部」あてにお送りください。  
 e-mail : finance@mof.go.jp

1

# 「子ども霞が関見学デー」とは？

親子のふれあいを深め、広く社会を知る機会に

1億円の重さ体験コーナーや  
金塊・銀塊、記念貨幣も展示

「子ども霞が関見学デー」は、各府省庁が業務説明や省内見学などを行うことを通じて親子のふれあいを深め、子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、各府省庁の施策に対する理解を深めてもらうことを目的に実施される一大イベントである。

本年度は、8月8日（水）、9日（木）の2日間に渡って開催。財務省においては、両日共通のプログラムとして、本省の業務紹介（DVD視聴）、財務副大臣とのミニ記者会見、省内見学を実施。また、8日は東京税関羽田税関支署の見学、9日は造幣局東京支局の見学が行われた。

今回は、子どもたちにわかりやすく、親近感を持ってもらうために、8日は「税関ってどんなところ？」、9日は「ぞうへいぎょく探検隊！」と、これまでのプログラム名を一新し、80名（各日40名）の募集を行ったところ前年の約2倍の736名もの応募があった。

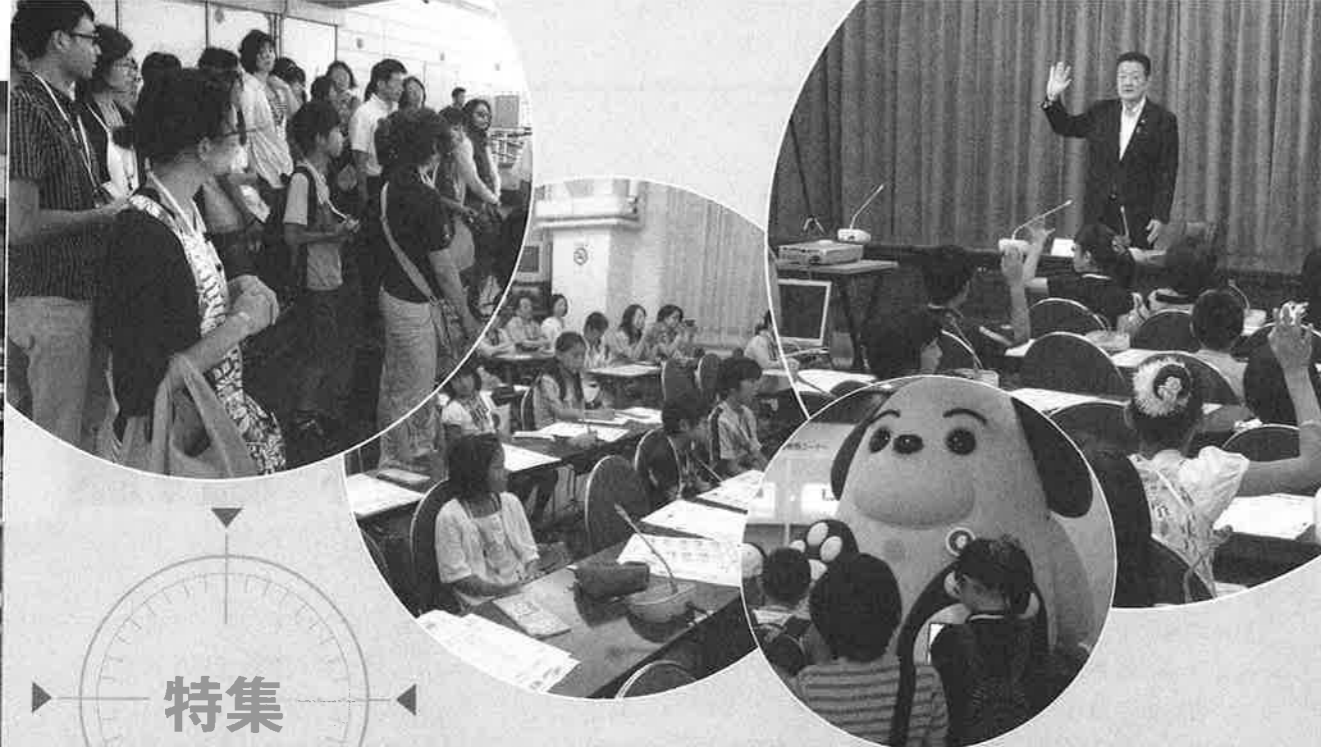


金塊・銀塊、記念貨幣などが展示された受付ロビーの様子

また、子どもたちに本省の業務や施策、通貨の役割などを理解し、興味を持っていただくよう、国立印刷局と造幣局東京支局のご協力をいただき、受付ロビーにおける展示コーナーの充実を図った。さらに正門では、税関イメージキャラクター・カスタム君に奮した職員が、来省を誘導するなどにより、両日合わせて907名（うち子ども544名）、前年の1.8倍もの参加を得られた。

参加者は、1億円の实物紙幣・貨幣袋の重さ体験や、実際にさわれる金塊・銀塊、地方自治法施行60周年記念貨幣や銀行券の様式及び偽造防止技術の紹介パネルなど、興味を持って見学していたほか、カスタム君の出迎えに大変喜んでる様子だった。

写真左：实物紙幣で1億円分の重さを体験。とても重そうだ  
写真右：子どもたちを出迎えるカスタム君



特集

# 「子ども霞が関見学デー」開催

—夏休みの思い出に  
900名以上の親子が参加—

去る8月8日（水）・9日（木）に、各府省庁による「子ども霞が関見学デー」が開催された。財務省においてもさまざまなプログラムを用意し、猛暑にもかかわらず両日合わせて900名以上もの参加を得られた。両日共通で行われた財務副大臣とのミニ記者会見や省内見学をはじめ、8日は東京税関羽田税関支署の見学、9日は造幣局東京支局の見学が行われた。今号の特集では、当イベントの概要や、両日それぞれに実施されたプログラムの模様をレポートする。

取材・文／風間立信



2 8月8日開催

# 「税関ってどんなところ？」レポート

東京税関羽田税関支署を見学



子どもたちの質問に丁寧に答える藤田財務副大臣

## 藤田財務副大臣とのミニ記者会見を実施

イベントの初日は晴天の中、54名（うち子ども29名）の参加を得て開催された。首都圏からがほとんどだったが、遠方から来られた方々もおられた。

イベント開始前に参加者に話を聞くと、引率者が子どもに期待することとして「視野を広げてもらいたい」「国の予算や税金について学んでほしい」といった声が多くあった。一方、子どもたちは「副大臣にたくさん質問をしたい」（小5男子）、「税関で麻薬探知犬を見たい」（小3女子）と、期待に胸を膨らませていた。

イベントが始まると、まず記者会見室にてオリエンテーションが実施され、財務省の仕事についてDVD視聴。アニメのキャラクターが登場し、財務省の建物の中を案内したり、予算や税金、税関などについてわかりやすく紹介した。

その後、藤田財務副大臣によるミニ記者会見が開かれた。まず、「税金はどう使われているのか」「特に重点的に使われているのは何か」といった子どもたちの質問に対し藤田財務副大臣は、「税金は、学校や病院、道路などを作ったり、皆さんが通う学校の授業料や教科書代、文房具代などに使われています。また、農家の方々の支援にも税金の一部が当てられています」「現在、重点的に使われているのは、社会保障と呼ばれる年金、医療、介護、そして子育てです。皆さんのような子どもたちは国の宝なので、しっかりと育つよう支援しています」と強調して答えた。

また、「国の借金ほどのくらいあるのか」「財務省の仕事では何が難しいのか」といった質問に対しては、「かなり借りています。将来、皆さんのような子どもたちに負担をかけないように、日本の人口を増やしたり、企業が元気になって、税金が増えるようにしないとけません」「税務署を通じて皆さんから大事なお金（税金）をいただいたり、いろいろなところから要望があるにもかかわらず、限られた予算の中でやり繰りをしないといけないので、ある意味、人からうらまれる仕事ですね」と、苦笑いを浮かべながら回答した。



写真上：ミニ記者会見を熱心に聞き入る参加者  
写真左：藤田財務副大臣に質問する子ども

そのほか、昨年起きた東日本大震災に関連した質問も多く出た。「震災に対し、副大臣としてどう考えているか」といった質問には、「すぐに現場に行ける体制を作らないといけない。国、自治体、自衛隊、警察、消防などで情報共有が重要。そのためには準備や訓練が必要です」と力説した。

子どもたちの素朴ながらも本格的な質問に、引率者も真剣に聞き入っていた。

最後に藤田財務副大臣は「これまでで一番厳しい記者会見でした（笑）」と締めくくり、タジタジになりながらも子どもたちとのふれあいに大変喜んでいただいていた様子だった。

最後に藤田財務副大臣は「これまでで一番厳しい記者会見でした（笑）」と締めくくり、タジタジになりながらも子どもたちとのふれあいに大変喜んでいただいていた様子だった。

子どもたちからは「教科書にも税金が使われていると聞いて、これからは大切に使いたい」（小4女子）、「早く借金がなくなるように大人はがんばってほしい」（中1男子）といった素直な感想が聞かれた。

ミニ記者会見終了後、図書館閲覧室に移動し、「大蔵省」時代の旧看板を見学。特に引率者にとっては懐かしさもあり、見入っている様子だった。

省内見学の締めくくりとして副大臣室を訪問。ミニ記者会見を行った藤田財務副大臣が出迎え、席の前で記念撮影を行った。一組一組丁寧に対応し、参加者は皆とても満足げであった。

## 麻薬探知犬や手荷物検査のデモンストレーションを体験

庁舎から羽田空港（国際線）へバスで移動し、東京税関羽田税関支署（CIQ棟）を見学。最初にDVDにて税関の業務紹介を視聴し、ターミナル5階の展望デッキに移動、空港を目前に施設見学を行った。実際に離着陸している飛行機を見て、子



写真上：旧大蔵省看板見学の様子  
写真下：藤田財務副大臣との記念撮影

どもたちは楽しそうにしていた。

次に、ターミナル2階の税関検査場へ移動し、実際に羽田空港で活躍している麻薬探知犬のデモンストレーションが行われた。子どもたちが帰国者の役として参加し、6個のバッグがある場所に配置。はじめは何もない中で麻薬探知犬に1個1個バッグを嗅がせるが、そのまま素通り。次に、その中の一つのバッグに麻薬の臭いがついたタオルを忍ばせ、再び麻薬探知犬にバッグを嗅がせると、タオルを忍ばせておいたバッグに反応し、見事に嗅ぎ分けた。この姿に参加者からは驚きの声が上がった。それが終わると、職員から麻薬探知犬の訓練方法や接し方などの説明があり、子どもたちからもいくつか質問が上がった。

麻薬探知犬の次は手荷物検査のデモンストレーション。子どもたちが税関職員役として参加し、質問の仕方を教えてもらいながら帰国者役の職員とやりとりが行われた。一人目は特に問題のない

3

8月9日開催

# 「ぞうへいきよく探検隊！」レポート

## 造幣局東京支局を見学

### ミニ記者会見には 五十嵐財務副大臣が登場

イベント2日目も晴天となり、55名（うち子ども29名）の参加を得て開催された。

初日同様、記者会見室にてオリエンテーション及び財務省の仕事についてDVD視聴が行われ、その後のミニ記者会見では五十嵐財務副大臣が登場された。

今回は造幣局の見学があることから、お金そのものについての質問が飛び交った。「お札の絵や貨幣のデザインは誰が決めているのか」「落書きしたお金は使えるのか」といった質問に対し副大臣は、「お札の絵は財務省などが考えて、大臣が定めています。貨幣のデザインも公募などをして最終的に大臣が決めています」「貨幣は故意に傷つけると犯罪になりますが、偶然ついてしまったら大丈夫。お札も多少破れても交換してくれますが、お金は大事に使ってください」と優しく語りかけた。

また、「一番多く出回っている貨幣は何か」の質問には、「確認させてください」と五十嵐財務



和やかな雰囲気で行われた五十嵐財務副大臣とのミニ記者会見

副大臣が保留し、職員が走るひとこまも見られた。（確認後、1円が約390億枚、10円が約195億枚と多く出回っている順に回答した）

さらに、「最初のお金は何ですか」の質問に「はじめは貝殻や石をお金代わりにしていたが、その後金属が使われるようになった」という答えに対し、子どもたちは「貝殻」という言葉に敏感に反応。「海で貝殻を拾ったらどうなるのか」「一番使われた貝殻は何か」と矢継ぎ早に質問が出た。さすがの五十嵐財務副大臣も困りながら「きれいな貝殻じゃないとお金として信用されなかったでしょう」「正直わかりませんが、あさりやしじみではないと思います（笑）」と冗談を交えて答えたところ、会場から笑い声が起きた。最後の挨拶で五十嵐財務副大臣は「今日は一番汗をかきました」と笑顔で語り、会見を終えた。

子どもたちからは「お金のことをたくさん聞いて、大事にしようと思った」（小6男子）、「昔のお金は貝殻と知って驚いた」（小2女子）などの声が聞かれた。これを機に、普段、何気なく使っているお金に対して、子どもたちの印象も変わるだろう。



熱心にノートに書き込む子どもの姿も

人物だったが、二人目の帰国者は受け答えが怪しく、旅具検査場に配備されているエックス線検査装置で手荷物を検査。すると、バッグの裏に隠されていたけん銃を発見し、水際で不正輸入を食い止めた。こうして、子どもたちが実際に参加することで、税関の仕事について理解を深めることができたと思う。

デモンストレーションが終わると、ターミナル3階の出発階にある「情報ひろば」へ移動。ここでは、カスタム君のクイズゲーム機やさまざまなゲームができるディスプレイのほか、知的財産侵

害物品展示コーナーなど、税関のニュースや歴史、役割などを楽しみながら学べる空間になっている。今回は時間の関係上、ゆっくり見ることはできなかったが、「次回に羽田空港へ来た際には、ぜひ足を運んでほしい」と職員はアピールした。

麻薬探知犬や手荷物検査のデモンストレーションを実際に体験した子どもたちは、「麻薬探知犬を間近に見れて嬉しかった」（小3女子）、「手荷物検査のやり取りがとても面白かった」（小5男子）と、目を輝かせながら語った。夏休みの楽しい思い出となったことだろう。

## ●羽田税関見学ギャラリー



▲展望デッキでの施設見学



▲麻薬探知犬のデモンストレーション



▲手荷物検査のデモンストレーション



▲情報ひろばでクイズに挑戦する子どもたち



▲旅具検査場でのエックス線検査



五十嵐財務副大臣との記念撮影



藤田財務副大臣も記念撮影に対応

その後は初日と同じく、旧大蔵省看板を見学し、副大臣室を訪問。今回は五十嵐財務副大臣、藤田財務副大臣両名が出迎え、参加者は皆どちらとも記念撮影や握手をしてもらおうと部屋を駆け回っていた。

### 七宝体験でペンダントを作成 製造工場や博物館も見学

次に、造幣局東京支局（豊島区）を見学。はじめにDVDにて造幣局の業務紹介を視聴した後、ブドウのペンダントにゆう菓を盛る七宝体験が実施された。職員からは、綺麗に仕上げるにはゆう菓を端から、少しずつ平らに、はみ出さないように盛るなどのコツがあり、また、桃・青・緑・黄色の4色のゆう菓を使用する際には絵の具のように色を混ぜない、色を替える時は必ず筆を洗うなどの説明がなされた。職員のアドバイスを聞きながら子どもたちは、皆真剣な表情で体験していた。

「難しかったけど、とても楽しかった」（小4女子）、「大人の人（職員）に優しく教えてもらい、うまくできた」（小6男子）と、子どもたちは満足そうだった。

その後、プルーフ貨幣（収集用として作られる表面が鏡のように光沢のある貨幣）と勲章の製造

工場を見学。プルーフ貨幣の製造工場では、焼鈍（円形に熱を加えて軟らかくする）、洗浄、研磨、乾燥、圧印、防錆塗装、ケースへの組み込みなど、完成までの一連の流れを見ることができた。箱詰めもオートメーションで行われており、機械が貨幣を箱に入れる際、それぞれの貨幣の向きがすべて真っ直ぐになるよう細かい動きがセッティングされていることに、参加者は驚いていた。

また、勲章の製造工場では、プルーフ貨幣とは打って変わって、ゆう菓の盛り付けやヤスリがけ、研磨など、職人一人ひとりが役割を持って、細かい手仕事を行っていた。特にゆう菓の盛り付けでは、顕微鏡で見ながらの非常に繊細な作業で、「こんなに丁寧に作られていてビックリした」（引率者）と、参加者も見入っていた。

最後に、記念硬貨や勲章、オリンピック入賞メダル、国民栄誉賞盾などが展示されている博物館を見学。普段見ることのない展示品に、子どもたちのみならず、引率者も高い関心を示されていた。

最初の会場に戻ると、七宝体験で作ったペンダントが出来上がっていた。色鮮やかに仕上がったペンダントを手にした子どもたちは、「思っていたよりきれいにできた」（小6男子）、「学校で自慢したい」（小4女子）と、皆一様に喜びの表情を浮かべていた。きっと、大切な宝物になることだろう。

## ●造幣局東京支局見学ギャラリー



▲七宝体験の様子



▲真剣にゆう菓を盛る子どもたち



▲ゆう菓を盛り終わったペンダント

◀完成したペンダントを手にして笑顔



▲博物館見学の様子

### \*\*\*\*\*取材を終えて\*\*\*\*\*

両日を通じて、本イベントは大盛況に終わった。参加者たちは楽しい見学時間を過ごしたように見受けられた。日頃、直接話す機会のない副大臣との会見をはじめ、税関見学では麻薬探知犬や手荷物検査のデモンストレーション、造幣局見学では七宝体験や製造工場見学など、盛りだくさんの内容に子どもたちは満足そうな様子であった。

引率者にとっても、さまざまなことを知っていただく大変いい機会であったかと思う。イベント終了後に感想を聞くと、「財務省の役割や業務内

容が理解できた」「これまでテレビなどでしか見る機会がなかった庁舎の中に入れて良かった」といった声があった。一方、子どもたちからは、「とても勉強になった。友達に話したい」（小5女子）、「財務省（の仕事）に興味を持った。また参加したい」（小6男子）など、大好評を得た。

財務省広報室は「来年度はさらに内容を充実させるべく、バージョンアップを図っていきたい」と意気込みを語る。次回も、ぜひ期待して参加していただきたい。